

# 大学の多様性をグローバルにローカルに考える

グローバル化にともない、外国にルーツを持ち、日本で育つ子どもたちが年々増えています。しかし、日本の学校教育は、複数の文化と言葉を持つ子どもたちが、その力を発揮できるような制度になっていません。彼ら・彼女らの進学率は低く、ライフチャンスも限られています。こうした状況を是正するために、何が必要なのかを考えてみませんか。

## <日時と場所>

2015年2月20日(金) 13:00~16:30(12:30 開場) 茨城大学図書館本館ライブラリーホール(水戸市文京 2-1-1)  
どなたでもご参加いただけます(無料)

挨拶 佐川泰弘(茨城大学人文学部長)

## <第1部:宇都宮大学国際学部から>

◆宇都宮大学国際学部の取り組みと現状  
田巻松雄(宇都宮大学国際学部)

◆学生の経験  
チョードリア美奈(宇都宮大学国際学部)  
コハツ・ホセ(宇都宮大学大学院国際学研究科)

◆コメンテータ  
付月(茨城大学人文学部)

## <第2部>

◆国勢調査にみる外国人の進学格差  
鍛治致(大阪成蹊大学)

◆茨城県の外国籍生徒の進学状況—茨城 NPO センター・コモンズ グローバルセンターの調査報告

横田能洋(茨城 NPO センター・コモンズ)・稲葉奈々子(茨城大学人文学部)

◆多様性を反映させる大学入試の試み—フランスの例  
稲葉奈々子

閉会の辞 斎藤義則(茨城大学人文学部市民共創教育研究センター)

司会 樋口直人(徳島大学総合科学部)

問い合わせ先: 稲葉奈々子

共催: 移住労働者と連帯する全国ネットワーク、茨城大学人文学部市民共創教育研究センター、宇都宮大学国際学部  
(このシンポジウムは一部ソーシャル・ジャスティス基金からの助成を受けています)